

2017年度 KIPP対人関係精神分析セミナー

ご あ い さ つ

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より KIPP 対人関係精神分析セミナーに温かなご支援とご理解をいただき、厚く御礼を申し上げます。今年度で本セミナーは14年目を迎えました。これまで本セミナーを支えてくださった参加者の皆さま、そして講師の先生方に感謝を申し上げます。そしてこれからも、たゆまぬ努力を積み重ねていく所存でございますので、どうか今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて今年度は、鑪幹八郎先生によるエリクソンの『洞察と責任』の新訳、吾妻壮先生による著作『精神分析における関係性理論』の出版を記念して特別講演を行います。そして今年もまた KIPP の講師陣だけではなく、それぞれのテーマについて造詣の深い講師の先生方をお迎えして、多面的で立体的な議論を行っていきたくと考えています。

また、例年ご好評をいただいている基礎セミナーにつきましては、今年度から新たに始まる「KIPP 精神分析セミナー・プラス」の一環として開催いたします。「KIPP 精神分析セミナー・プラス」とは、KIPP の講師陣による少人数形式でのテーマを絞ったセミナーです。講師と参加者が対人関係精神的な相互交流を体験的に学び、実践力向上の機会を提供いたします。是非こちらにも多数の皆様のご参加をお待ちしています。

本セミナーでの学びが、複雑で時に困難な日々の臨床現場に寄与することを願っています。どうかたくさんの方にご参加いただけますよう、心よりお待ち申し上げます。

京都精神分析心理療法研究所 所長 横 井 公 一

連絡先：一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会

〒612-8083 京都市伏見区京町4丁目156番地1 桃山ビル3F

KIPP 桃山心理オフィス内

Tel & Fax : 075-623-0823 e-mail : info@kipkyoto.org

ホームページ <https://www.kipkyoto.org/>

2017 年度対人関係精神分析セミナー

今年度のセミナーは、特別セミナーと精神分析における重要な現象や事態を取り上げたテーマとで構成いたしました。全体の特徴としては、対人関係／関係精神分析に関わる著作や翻訳の出版に合わせたことが挙げられます。

第1回「エリクソン『洞察と責任』新訳発刊記念特別セミナー」では、鏑幹八郎先生に講義していただきます。『洞察と責任』に収められた各論考は、精神分析臨床を行ううえでの本質的な問題がそれぞれ提起されています。それは例えば、精神分析を研究するという行為の意味、人間の人格的活力の問題などです。鏑先生は長年、日本の対人関係精神分析や心理臨床を牽引されてきました。私たちは広大なエリクソンの視座が臨床実践にどのような意味を持つのか学びたいと思います。

第2回「『精神分析における関係性理論』発刊記念特別セミナー」は吾妻壮先生によるご著書についての講義です。吾妻先生は現代精神分析の諸概念について検討する仕事を積極的になされています。『精神分析における関係性理論』では、関係精神分析の解説に加え、中立性、分析家の意図など現代精神分析の注目する問題が議論されています。この回は、関係性をキーワードとした様々な問題への考え方について学びます。

第3回から第6回までの各回のテーマは「抑うつ」「子どもの外傷」「自己愛」「パラノイド」です。これらはどれも精神分析や精神分析的な心理援助の現場で日々出会うものであり、実践するうえで避けて通れないものです。各回の多彩な講師の先生方による経験とそれを支える理論に触れることは、セミナーに参加する私たちの臨床実践の幅や深みを更新させてくれることと思います。第3回から第6回のテーマは、William Alanson White Institute の Sandra Buechler 先生によるパーソナリティ論『Understanding and Treating Patients in Clinical Psychoanalysis』の内容にもある程度対応させています。この著作は近いうちに翻訳出版される予定です。セミナーでの内容と照らし合わせれば、更にまた別の視点が得られると考えています。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお本セミナーは各回とも、臨床心理士の研修ポイントに申請予定です。

一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会

伊藤未青 若井美弥子 野原一徳

岡村香織 森真治 山岡亜里紗

日程・プログラム

日程	講師	講義テーマ
① 2017年 5月28日(日) 午前11時～午後5時 会場:キャンパスプラザ京都	鑪 幹八郎 対話者:川畑 直人	エリクソン『洞察と責任』 新訳発刊記念特別セミナー
② 2017年 7月9日(日) 午前11時～午後5時 会場:未定	吾妻 壮 対話者:横井 公一	『精神分析における関係性理論』 発刊記念特別セミナー
③ 2017年 9月24日(日) 午前11時～午後5時 会場:未定	杉原 保史 鈴木 健一	抑うつ
④ 2017年 11月12日(日) 午前11時～午後5時 会場:未定	山本 雅美 河崎 佳子	子どもの外傷
⑤ 2018年 1月21日(日) 午前11時～午後5時 会場:未定	岡 秀樹 横井 公一	自己愛
⑥ 2018年 3月11日(日) 午前11時～午後5時 会場:未定	岡野 憲一郎 川畑 直人	パラノイド

◇ **会場:** キャンパスプラザ京都、YIC 京都工科大学校等を予定しております。

(未定分につきましては、決まり次第ホームページ <https://www.kippkyoto.org/>に掲載します。申し込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします)

◇ **定員:** 90名程度

◇ **受講料:** セッションごとの申し込み

一般 7,000円 学生 6,000円

シリーズ申し込み(全6回)

一般 36,000円 学生 30,000円

タイム・スケジュール

第一講義	昼食	第二講義	休憩	事例検討
11:00 ～ 12:30	12:30 ～ 13:20	13:20 ～ 14:50	14:50 ～ 15:00	15:00 ～ 17:00

(セミナー第1回と第2回の「特別セミナー」における第二講義の時間は、対話者の先生を中心としたディスカッションの時間といたします)

講義内容

第1回 2017年5月28日(日)

「エリクソン『洞察と責任』新訳発刊記念特別セミナー」

「エリクソンの精神分析的臨床の方法 - 『洞察と責任』の改訳をして感じたこと」

講師 鑪 幹八郎

エリクソンは自我心理学つまり、古典的精神分析の重要な理論家、臨床家として知られている。1950年後半から1980年ぐらいの間、米国を中心に活躍した。特に、1960年から70年にかけて、アイデンティティの研究者または主唱者としてよく知られている。『洞察と責任』は1964年に出版された。日本では1971年に訳出した。昨年9月、46年ぶりに新しく改訳を果たした。エリクソンの現代的な意義について、また対人関係論との共通性や現代的な先導的アイデアについて紹介し、話し合いたい。前もって、『アイデンティティの心理学』（講談社新書）を読んでいただくと、討論がしやすいです。

★参考テキスト

E. H. エリクソン／鑪幹八郎訳 (2016) 『洞察と責任』 誠信書房
鑪幹八郎 (1990) 『アイデンティティの心理学』 講談社新書

「対話者から」

川畑 直人

臨床心理学を学び始めた時、私はエリクソンのアイデンティティ論の大ファンでした。「心理臨床大事典」でもエリクソンの章を書かせてもらいました。当然、エリクソン研究の第一人者である鑑先生のことを遠巻きに尊敬していました。あれから、25年経って、エリクソンとの距離、そして鑑先生との距離が大きく変わりました。その変化を経て、改訳されたエリクソンの著書について、鑑先生と対話できるとは。今から、ドキドキしています。

第 2 回 2017年7月9日（日）

「『精神分析における関係性理論』発刊記念特別セミナー」

「『精神分析における関係性理論』について」

講師 吾妻 壮

本セミナーは、拙著『精神分析における関係性理論』の発刊記念特別セミナーとして企画していただいた。『精神分析における関係性理論』は、関係性理論についての考えを簡潔にまとめたものであるが、網羅的なものではなく、いくつかのトピックに絞って書いた本である。関係性理論について理解することは決して容易なことではなく、私自身長い間沢山の疑問を抱えていた。本書では、そのような疑問の一部に私なりの答えを見つけることを試みている。対象関係とは何か、精神分析理論と技法の関係はどのようになっているのか、などといったテーマに触れつつ、本書の概略をご紹介できればと思っている。

★参考テキスト

吾妻壮 (2016) 『精神分析における関係性理論』誠信書房

岡野憲一郎 (編著) (2016) 『臨床場面での自己開示と倫理』岩崎学術出版社

P.M. ブロンバーグ／吾妻壮他訳 (2014) 『関係する心：外傷、癒し、成長の交わる場所』誠信書房

「対話者から」

横井 公一

吾妻壮先生のご著書『精神分析における関係性理論』をめぐっての対話者を務めさせていただくことになったのは、たいへん光栄なことである。著者も指摘しているように、関係性理論はその見かけとは違って、理解するうえでたいへんに難解な理論である。本書は、その難解な理論に向かつて著者が果敢に切り込んでいった思索の軌跡である。今回の対話においては、著者の思索の軌跡を参加者と共にたどれるように、道案内の役目を果たせればと思っている。

第 3 回 2017年9月24日（日） 『抑うつ』

「青年期における多様なうつ：多様な治療的取り組み」

講師 杉原 保史

青年期の若者の相談を受けていると、新型うつ、発達障害の二次障害としてのうつ、適応障害の症状としてのうつ、ハラスメントや虐待によるうつなど、多様なうつ状態と出会う。うつは、潜在的には不安、恥、怒り、孤独感などの感情と混じりあっていることが多い。これらの感情体験を分化させて促進することが有用である。ポジティブな感情を体験できるよう方向づけることも役立つ。行動を促進するため、パーソナルな価値との接触を促進することも役立つ。内面的な作業に加えて、環境調整も重要なポイントとなる。青年期のさまざまなうつ状態に対して、統合的心理療法の立場から、私なりの工夫と考えをお伝えし、実践の一端を共有したい。

★参考テキスト

平木典子・福島哲夫・岩壁茂（編）（2011）『新世紀うつ病治療・支援論—うつに対する統合的アプローチ』金剛出版

「対人関係学派の抑うつへのアプローチ」

講師 鈴木 健一

人との生別、死別は抑うつの契機となりうる。フロイトは、メランコリーを生じた喪失に気付いていても、その人を失ったことをわかっているが、その人の何を失ったのかはわからないと述べた。対人関係学派の抑うつに対するアプローチは、ユニークである。ひたすら喪失の痛みに耐え抜く力を養おうとするもの、積極的な活動を後押しするもの、怒りに焦点を当てるもの、怒りだけでなく感情全般を取り扱うものなどがある。学生相談の現場から、これらのアプローチについて紹介し、抑うつの意味について検討してみたい。

★参考テキスト

Buechler, S.(2014) *Understanding and Treating Patients in Clinical Psychoanalysis*. New York: Routledge.

第 4 回 2017年11月12日（日） 『子どもの外傷』

「幼児期の外傷 —その理解と臨床—」

講師 山本 雅美

外傷（トラウマ）は今日、日常会話にも使用されるまでに行き渡った用語であるが、誤用されることも稀ではない。また一口に外傷と言ってもその内容、それが引き起こす心理的反応は多岐にわたる。そこでまず外傷を改めて概観し、その上で子どもの外傷を考えたい。子どもは自己が

つくられる途上にあり、養育者を含む環境から現実によくの支えを必要とする。このような時期に外傷にさらされ、圧倒されることの影響に注目することは重要である。幼児期の外傷に注目し、これをどのように理解し、どのように臨床に役立てることができるかを考えたい。

★参考テキスト

E. ギル／西澤哲訳 (1997) 『虐待を受けた子どものプレイセラピー』 誠信書房

J. L. ハーマン／中井久夫訳 (1999) 『心的外傷と回復』 (増補版) 第5章「児童虐待」 みすず書房

L. テア／西澤哲訳 (2006) 『恐怖に凍てつく叫び—トラウマが子どもに与える影響』 金剛出版

「‘telling’による育ちのつなぎと外傷体験： 乳児院・児童養護施設での実践から」

講師 河崎 佳子

乳児院や児童養護施設では、さまざまな心的外傷を被った子どもたちが生活している。演者は、そうした子どもたちの心のケアと成長に向けて、育ちを「つなぐ」をテーマに支援をつづけてきた。発達早期からの‘telling’をキーワードとする実践を紹介し、出自や家族の問題、困難な生育史、措置変更や職員の異動退職に伴う喪失体験等に向き合いながら成長する子どもたちとのかかわりから、「オープンであること」「話題にすること」のもつ威力を改めて学びたい。乳児期・幼児期早期の子どもたちへの働きかけをも含めた具体像を提示する。

第 5 回 2018年1月21日 (日) 『自己愛』

「コフートの自己愛理論」

講師 岡 秀樹

おのれの容姿や身体にほれ込む性倒錯を指すものとしてあった自己愛を、フロイトはメタ心理学に考察し、いわゆるエディプス期の対象愛をめぐる葛藤にいたる前の自己への愛着状態として理解した。その精神性的な発達理論では、自己愛は低次の心性であり、健全な発達コースでは対象愛に取って代わられるものであった。それに対してコフートは、自己愛には独自の発達ラインがあり、フロイトのいう対象愛の発達よりも、自己愛の発達こそが一次的であると主張するにいたった。

講義では、こうしたコフートの自己愛理論を紹介したい。

★参考テキスト

A. M. シーゲル／岡秀樹訳 (2016) 『コフートを読む』 金剛出版

「関係精神分析から見た自己愛について」

講師 横井 公一

自己愛の概念の出発点は欲動の理論にある。フロイトは、リビドーが外的世界の対象に向き、リビドー的な願望をめぐる葛藤を生む以前の段階として、自己愛という概念を提案した。その後、自我心理学の発展のなかで、自己愛は自尊心や自己評価を調整するものとしての役割を付与されることになり、さらに自己心理学からの見解によって、その形成と維持に自己対象が果たす役割が付け加えられた。それでは、主体と対象とが織りなす関係性の布置を探索する関係精神分析においては、自己愛はどのような概念としてとらえられて、治療的に扱われるのだろうか。本講義では、ミッチェルの統合的關係アプローチをもとに、その考察を深めたい。

★参考テキスト

S. A. ミッチェル著／鑪幹八郎監訳、横井公一訳 (1998) 『精神分析と関係概念』 「第7章 イカロスの翼」 および 「第8章 繊細な均衡：錯覚の臨床劇」 ミネルヴァ書房

第6回 2018年3月11日（日） 『パラノイド』

「心の陥穽としてのパラノイア」

講師 岡野 憲一郎

パラノイアは、私たちがケースを通じて、あるいは個人な体験の中でしばしば出会う心性である。私たちの心が柔軟性を失い、葛藤状況を楽しめなくなったときにパラノイド心性が忍び込む。パラノイアはいわば心という複雑系の持つアトラクタ、陥穽と言え。この講義では私たちがこの陥穽に陥る様々なパターンについて、ボーダーライン反応、親への恨みや未生怨などをキーワードにして考える。

「組織の心性としてのパラノイアと個人病理」

講師 川畑 直人

パラノイアは集団や組織における現象としてもよくみられるものである。精神分析的な探求は、そうした組織におけるパラノイア現象にも向けられており、例えばカーンバーグはリーダーの性格が、個人のエディパル、プレエディパルな葛藤と絡み合っ、パラノイアを生むプロセスを理論化しようとしている。こうした現象に注目することは、私たち自らの心に住むパラノイアに対する感受性を増してくれ、それはクライアントの個人病理に対する理解も深めてくれる。

講師紹介（アルファベット順）

吾妻 壮 Agatsuma, Soh

精神科医・医学博士・精神分析家・国際精神分析協会（IPA）正会員・米国精神分析協会（APsaA）正会員

所属：神戸女学院大学人間科学部

著書：『臨床場面での自己開示と倫理—関係精神分析の展開』（共著、岩崎学術出版社）、『関係精神分析入門』（共著、岩崎学術出版社）

訳書：P.M. ブロンバーグ『関係するところ』（誠信書房）、J.リア『開かれた心』（里文社）、B. ビービー他『乳児研究から大人の精神療法へ—間主観性さまざま』（岩崎学術出版社）

川畑 直人 Kawabata, Naoto

臨床心理士・教育学博士・WAWI 精神分析家・WAWI 児童青年心理療法家

所属：京都文教大学／一般社団法人京都精神分析心理療法研究所／（有）ケーアイピーピー

著書：『臨床心理学』（共著、培風館）

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる』（監訳、創元社）、F. パイン『欲動、自我、対象、自己』（監訳、創元社）

河崎 佳子 Kawasaki, Yoshiko

臨床心理士・教育学博士

所属：神戸大学人間発達環境学研究科

著書：『きこえない子の心・ことば・家族』（明石書店）『聴覚障害者の心理臨床2』（共編著、日本評論社）

訳書：F. パイン『発達理論と臨床過程』（共訳、岩崎学術出版社）、『欲動、自我、対象、自己』（共訳、創元社）

岡 秀樹 Oka, Hideki

臨床心理士

所属：疋田病院

著書：『カウンセリング入門』（分担執筆、有斐閣）、『臨床心理学への招待』（分担執筆、ミネルヴァ書房）

訳書：O. カーンバーグ『対象関係論とその臨床』（分担訳、岩崎学術出版社）、A. ゴールドバーグ『自己心理学とその臨床』（岩崎学術出版社）、A. シーゲル『コフートを読む』（金剛出版）

岡野 憲一郎 Okano, Kenichiro

精神科医・臨床心理士

所属：京都大学大学院

著書：『外傷性精神障害』、『解離性障害』、『治療的柔構造』、『脳から見た心』（いずれも岩崎学術出版社）他

杉原 保史 Sugihara, Yasushi

臨床心理士・教育学博士

所属：京都大学学生総合支援センター

著書：『統合的アプローチによる心理援助』（金剛出版）、『技芸（アート）としてのカウンセリング入門』（創元社）、『プロカウンセラーの共感の技術』（創元社）、『キャリアコンサルタントのためのカウンセリング入門』（北大路書房）、『心理カウンセラーと考えるハラスメントの予防と相談』（北大路書房）

訳書：P. ワクテル『心理療法の統合を求めて』（金剛出版）、P. ワクテル『心理療法家の言葉の技術』（金剛出版）、J. フランク&J. フランク『説得と治療』（金剛出版）、P. ワクテル『ポール・ワクテルの心理療法講義』（金剛出版）

鈴木 健一 Suzuki, Kenichi

臨床心理士・心理学博士・WAWI精神分析家

所属：名古屋大学学生相談総合センター

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる－対人関係学派からみた価値の問題－』（創元社）

鑪 幹八郎 Tatara, Mikihiro

臨床心理士・教育学博士・WAWI精神分析家

所属：京都文教大学名誉教授／一般財団法人広島カウンセリング・スクール理事長

著書：『著作集第1巻 アイデンティティとライフサイクル論』、『著作集第2巻 精神分析と心理臨床』、『著作集第3巻 心理臨床と倫理、スーパーヴィジョン』、『著作集第4巻 映像・イメージと心理療法』（ナカニシヤ出版）他

訳書：H.S. サリヴァン『精神医学は対人関係論である』（共訳、みすず書房）他

山本 雅美 Yamamoto, Masami

臨床心理士・NY州精神分析家・WAWI精神分析家・WAWI児童青年心理療法家

所属：国際基督教大学

横井 公一 Yokoi, Koichi

精神科医・臨床心理士

所属：浜寺病院

著書：『関係精神分析入門』（共著、岩崎学術出版社）、『臨床場面での自己開示と倫理』（共著、岩崎学術出版社）

訳書：J. グリーンバーグ&S. ミッチェル『精神分析理論の展開』、S. ミッチェル『関係概念と精神分析』『関係精神分析の視座』（ミネルヴァ書房）、C. ボラス『精神分析という経験』（岩崎学術出版社）

会場案内

キャンパスプラザ京都 (JR・近鉄・地下鉄各線京都駅より徒歩約5分)

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル 【Tel】 075-353-9111

YIC 京都工科大学校 (JR・近鉄・地下鉄各線京都駅より徒歩約5分)

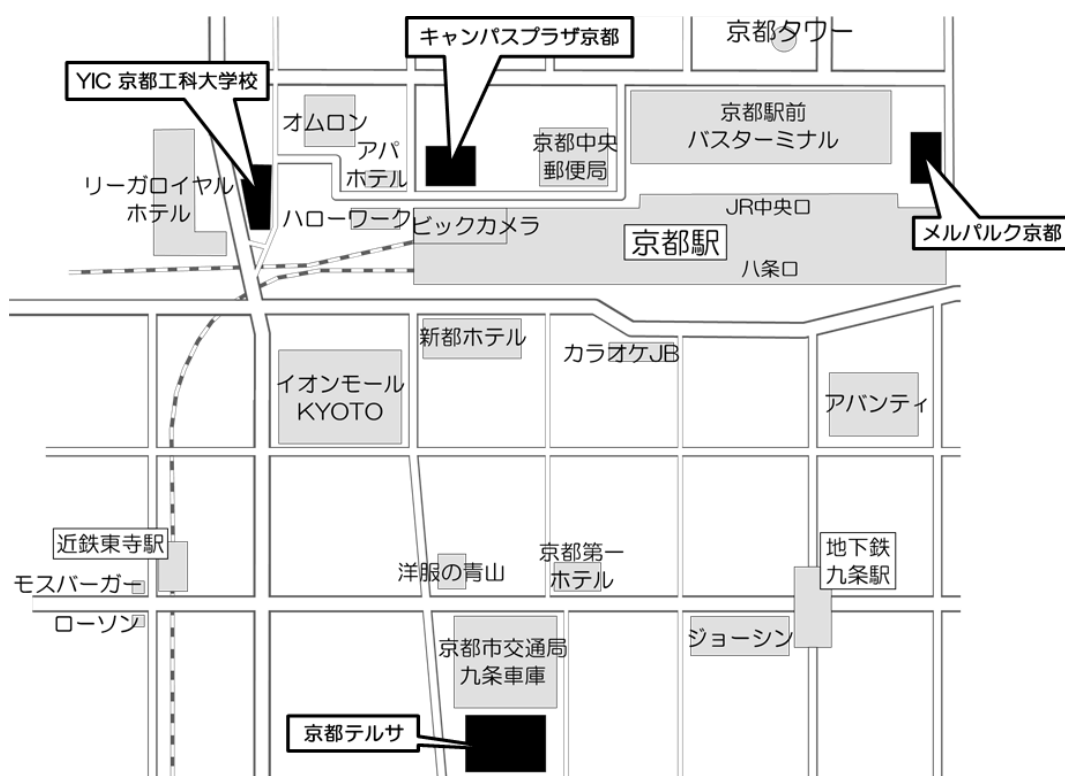
〒600-8236 京都府京都市下京区西油小路町 27 【Tel】 075-371-4040

京都テルサ (JR 京都駅八条口西口より南へ徒歩約15分、近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分)

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 70 番地 京都府民総合交流プラザ内 【Tel】 075-692-3402

メルパルク京都 (JR 京都駅烏丸中央口より東へ徒歩約1分)

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676 番 13 【Tel】 075-352-7444



※セミナーは「キャンパスプラザ京都」、「YIC 京都工科大学校」など京都駅周辺の会場で行います。

※未定となっている会場は、決まり次第ホームページ <https://www.kippkyoto.org> に掲載します。申し込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします。

＜ 受講申込要領 ＞

対象 臨床心理士、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。
または、それに関わる学生、大学院生。事例の守秘を守れる方。

申し込み方法 ①**e-mail**
同封の「申し込み用紙」を e-mail に添付、または必要事項を e-mail にご記載の上、お申し込み下さい（必ず **PC の e-mail アドレス** をご記入下さい）。受付後、振込先を e-mail にてお知らせするとともに、申込受付票を PDF にてお送りいたします。

②**Fax・郵送**

同封の「申し込み用紙」に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。受付後、振込用紙と申込受付票をお送り致します。

申し込み期限 シリーズ申し込み 第 1 回開始日の 2 週間前まで
セッションごとの申し込み 各セミナーの 2 週間前まで

※定員に達した場合は申し込み期限より早めに締め切りとさせていただきます。ご了承下さい。

申し込み・問い合わせ 〒612-8083 京都市伏見区京町 4 丁目 156 番地 1 桃山ビル 3F
KIPP 桃山心理オフィス内 一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会
Tel&Fax : 075-623-0823 e-mail : info@kippsyoto.org

受講料	シリーズ(6回)申し込み	セッションごとの申し込み
	一般 36,000 円	一般 7,000 円
	学生 30,000 円	学生 6,000 円

払い込み期限 振込用紙・振込先を受け取り後、セミナー当日 1 週間前までにお振込み下さい。

- 初回受講時には、申込受付票と郵便振替払込受領証（またはプリントアウトしたもの）をお持ち下さい。引き換えに名札と研修証明書をお渡しします。
- 一度納入頂きました受講料は原則として返却致しかねますので、あらかじめご了承下さい。

会場受付開始時間 講義開始時間の 15 分前より開始いたします。

*この案内は、過去のセミナー参加者名簿、心理臨床学会名簿、臨床心理士会名簿の情報をもとにお送りしています。以後、案内送付を希望されない方は、恐れ入りますが Fax、e-mail 等でご一報下さい。送付リストよりはらずさせていただきます。

*また、お近くに案内の送付を希望されている方がいらっしゃいましたら、事務局にご連絡ください。案内送付リストに加えさせていただきます。